

事前照会結果

Q1. 10年後の留萌は、どんなまちになっていたら良いですか？

笠井副座長	上野委員	大沼委員
・市民のウェルビーイングがつながり広がるまち ・様々なアクセスポイントが増えてほしい (街へ、人へ、文化へ、自然へ、学びへ、健康へ、他地域へ)	「すべてが丁度良いまち留萌」 ・若者に活気がありコミュニティが丁度よいまち (伝統行事、まつり等を継続した地域コミュニティの維持とまちづくりへの参画) ・予防医療活動や医療福祉が丁度よいまち (整いすぎず、無くもない。予防医療活動が関係行政や外部団体と連携して積極的である) ・水産業や雇用が丁度よいまち (日本一の加工品のほか、新たな商品も継続的に開発されている。) ★ある程度そろうので、不便ではなく、渋滞もなく、都市部への距離も丁度良い	・人口は緩やかに減っても、コミュニティで支えあえる街 ・心身ともに健康に過ごせる街 ・市外から訪れる人がうらやましいと思う田舎の街

Q2. その将来像を実現するために、今から5年間で最も重要だと思うことは何ですか？

笠井副座長	上野委員	大沼委員
・るもいでの生活を楽しむ ・心の豊かさを増やす (余裕、余暇、ゆとり)	「若者への投資を惜しまず、若者を信頼し託す行政の勇氣」 ・ブランディング (留萌市を愛する市民による、留萌市を愛してくれる人への活動) ・マーケティング (留萌市(商品、環境、自然、人等)を売れる市にするための仕組み) ・プロモーション (留萌市をさらに知ってもらうための活動やさらなる刺激) ★若者への投資は、結果として教育、福祉、商工観光への投資となる。 青年団体やまちづくり団体等へ勇氣を持ち積極的に投資することで10年後に咲くであろう	・街のゾーニングを明確にする ・再利用できる施設とそうでない施設を明確にする ・集えるコミュニティスペースを作る